

研究シーズのタイトル

地域住民の終の棲家の意思決定を支援するプログラム作成

研究者名

尾形 由起子

所属

看護学部

研究シーズの専門分野

公衆衛生看護学、在宅看護学

研究シーズのキーワード

在宅医療、アドバンスケアプランニング、家族支援・マネジメント

研究シーズの概要

私は公衆衛生看護学分野の研究を行っています。超高齢多死社会において、高齢者が住み慣れた地域で療養生活を継続するための看護活動を主な研究テーマです。具体的な研究内容は、①地域包括ケアシステムを構築するための多職種による地域住民の終の棲家を意思決定するための支援について①地域住民が住み慣れた地域で暮らす続けることに対し住民同志が主体的に検討するための場づくり③医療依存度の高い人々が在宅で療養生活を継続のための多職種マネジメントをしています。大学院教育においては、アドバンスケアプランニングの考えをもとに「住民の主体性と終末期までの在宅療養意思決定に関する認識」や「がん患者の退院支援における退院調整看護師と病棟看護師との連携に関する研究」等のテーマの論文指導を行っています。

また、平成20年度より福岡県内を中心とした地域在宅医療推進のための協議会や研修会等の企画・運営を行ってきました。

研究シーズの適用分野

これまでの社会を創って下さった高齢者の多くが後期高齢者となる高齢多死社会を迎えています。コロナ禍における感染症拡大化における尊厳のある死を迎えられるためのACPIにおける看護学分野の研究を行っています。住み慣れた地域でできるだけ療養生活を継続するための看護活動を主な研究テーマとなります。研究内容は、①地域住民の終の棲家を意思決定するための多職種による支援について①地域住民が住み慣れた地域で暮らす続けることに対する住民同志の自助・互助の形成に対する研究③医療依存度の高い人々が在宅で療養生活を継続のための多職種に対するマネジメントとしています。平成20年度以降、福岡県の行政と共に実践活動として地域在宅医療推進のための協議会や研修会等の企画・運営を行っています。